



# 適正な保険診療・請求について学ぶ



10月25日(水)、佐賀市アバンセにて山口圭三先生(久留米大学病院医療連携センター副センター長)を講師に、医科研究会「久留米大学病院における保険診療適正化への取り組み」を開催し、48医療機関より82名の参加がありました。

以下、参加者からの報告です。

山口先生は、熊本県で個別指導の医療指導官を経験され、現在は非常勤の保険指導医として時々個別指導に携わっておられ、その時の経験談や久留米大学での現状と問題点などを織り交ぜながら、保険診療の適正化について、分かりやすく講演していただいた。

集団的個別指導には、レセプト1件あたりの平均点数の高い医療機関の上位8%が呼ばれること。

指導の翌年1年間の平均点数の高い医療機関の上位4%が、指導の翌々年に個別指導に呼ばれること。個別指導に選定された場合は、1カ月前に通知があり、指導の際に持参する必要があるカルテ等の対象患者リストについては、1週間前に20人分・前日に10人分が連絡される。電子カルテの場合は、1人分のカルテとして印刷してまとめる必要があり大変な作業になる。電子カルテには真正性が厳しく求められているので、あと2日ほど早めに連絡してもらえないものかと思う。

個別指導の際、管理料や判断料などは算定の要件が決まられており、診療の内容をカルテに記載しなければならぬという事を指摘される。算定要件を満たすための指導が実施され、その内容がカルテに記載されている事が重要との事。

腫瘍マーカー測定では、結果・判断内容・治療計画等のカルテ記載が必要である。

インスリンの自己注射指導も要件を満たす必要があり、前医にて指導が

行われ、引き続き指導継続する場合にはその旨記載が必要。

自己血糖測定は、指導した回数ではなく患者が測定してきた回数で算定するとの事。

血液・画像・病理・生体検査等は結果と判断内容のカルテ記載があるかもチェックを受けるようである。

お立場上詳しくは講演できないよう、精一杯のところで話をいただいたように思う。集団的個別指導にあつた場合にはぜひ講演を聴いていただき、2年後に受けるかも分からない個別指導の対策に役立てていただきたく、定期開催でも良いような内容であった。

最後に私的な意見ではあるが、個別指導の選定要件は1件あたりのレセプト高点数との事なのだが、その指導内容は算定要件を満たして算定しているかのチェックと指導のように思えた。選定基準と指導内容にずれを感じるのには私だけであろうか。個別指導本来の目的、内容に沿った懇切丁寧な指導がなされるのであればという条件付きではあるが、高点数での選定の他、算定要件を満たしていない可能性の高い医療機関への指導も考えられるのではなからうか。

(佐賀市 Dr. Silence)

11月26日(日)、第175回保団連九州ブロック会議が行われ、九州ブロック協議会として、2018年改定でのプラス改定を求める声明を提出しました。

地域医療を立て直すために診療報酬・介護報酬のマイナス改定は断じて容認できない。2018年4月実施の医療・介護同時改定の大幅な引き上げを求める

社会保障予算の大幅削減という政府方針のもと、2018年診療報酬・介護報酬改定をマイナス改定とする動きが強まっている。財務省は10月25日の財政制度等審議会・財政制度分科会で、2018年の診療報酬改定について、薬価部分のみならず本体部分も引き下げて、「2%半ば以上

## 署名を国会議員に提出してきました

ご協力ありがとうございました

「診療報酬の引き上げと患者窓口負担の軽減を求める」署名170筆、「保険で良い歯科医療を」署名157筆を11月16日(木)、内閣総理大臣、厚生労働大臣、財務大臣、佐賀県選出国会議員に提出してきました。

詳細は後日掲載いたします

しかし、診療報酬は医療機関の経営の原資であるとともに、患者さんが受ける医療の内容や質、量を規定するものである。患者さんに安全・安心な医療を提供するために、必要な人件費等を確保できる技術料の評価が不可欠であり、診療報酬本体の引き下げは医療従事者の人件費引き下げにつながり、この間の政府の賃上げの取組みとも矛盾するものであり、断じて容認できない。

医療費の増加の多くは薬剤費であり、医師・歯科医師の技術料は15年間ほとんど増加していない。その結果、各地で「医療崩壊」といわれる事態を引き起こしている。11月8日に中医協に示された「第21回医療経済実態調査」では、16年度の一般病院の損益率はマイナス4.2%と「過去3番目に悪い数値」という厳しい実態が明らかとなった。医師不足と長年の診療報酬抑制を背景に、長時間勤務による医師の過労死が相次ぐなど、医療現場の過重労働や特に歯科の医院経営の悪化により廃業に追い込まれる事態などが大きな問題となつて

保団連九州ブロックが声明

11月26日(日)、第175回保団連九州ブロック会議が行われ、九州ブロック協議会として、2018年改定でのプラス改定を求める声明を提出しました。

地域医療を立て直すために診療報酬・介護報酬のマイナス改定は断じて容認できない。2018年4月実施の医療・介護同時改定の大幅な引き上げを求める

社会保障予算の大幅削減という政府方針のもと、2018年診療報酬・介護報酬改定をマイナス改定とする動きが強まっている。財務省は10月25日の財政制度等審議会・財政制度分科会で、2018年の診療報酬改定について、薬価部分のみならず本体部分も引き下げて、「2%半ば以上

私たちが命と健康を守る医師・歯科医師は、再び「医療崩壊」をまねく財務省の大幅なマイナス改定方針に強く反対するとともに、地域の安全・安心の医療・介護提供体制を無理なく保持するため、診療報酬技術料の10%以上の引き上げと介護報酬の大幅な引き上げを強く求める。

2017年11月26日

第175回九州ブロック協議会

保団連九州ブロック協議会



秋も深まる頃、川原で芋煮会をして、友人や知人と楽しんだ。山形大学の学生時代である。その頃から約40年が経った▼11月23日の勤労感謝の日にクニックの第18回の収穫祭を行った。風は多少吹いたが天気に恵まれた。内容は芋煮会である。豚汁に里芋を加えるだけではないが、これが美味である。秋の味覚サンマを焼いて加える。ごはんは玄米・白米の混合である。またデザートには安納芋の焼芋を出す▼患者さんやその家族、地域の人達、友人、知人その家族など多くの人が来てくれて、久しぶりの会合を楽しんで、食べる・しゃべるだけでなく、多少学習もしていただく。食物アレルギーの予防から健康になる食生活について話をする。玄米入りのごはんは、白米のアレルギーを抑えるし、便通もよくする。お魚のEPAはアレルギーを抑えるだけでなく、動脈硬化予防にもつながる。有機無農薬で作った野菜は農薬の害がないだけでなく、ビタミン等も豊富である▼販売したのは有機無農薬で作った大根、コンジニ、秋ジャガ、ピーナツ、里芋、サツマイモなどである。今年は大変豊作でもあり、完売であった。一緒にパッケージもさせていただいた。出品は多くの方に協力してもらった。日頃の医療だけのつながりでなく、地域の中でいる方との交流ができ、準備した職員は大変だったと思うが、収穫もあつたと思う。

(佐賀市 山口 宏和)

# 佐賀県保険医新聞

発行所  
佐賀県保険医協会  
佐賀市駅前中央1-9-45  
(三井生命ビル4F)  
電話 0952(29)1933  
FAX 0952(23)5218  
HP http://saga-doc.jp  
hoken-i@star.saganet.ne.jp  
購読料 1部 200円  
送料込 年間2,400円  
(会員の購読料は会費に含まれています)

| 協会会員数      |      |
|------------|------|
| 医科         | 663人 |
| 歯科         | 331人 |
| 合計         | 994人 |
| (10月31日現在) |      |

## 主な記事

- ・ 医科歯科合同一泊学習セミナー……………2面
- ・ 病気を持った患者の歯科治療シリーズ(第3回)……………4面
- ・ 九州ブロックと九州厚生局との第9回目の懇談……………4面
- ・ 共済部だより「休業保障申込バッチ迫る!」……………7面
- ・ 経営税務「決算についての注意点は?」……………8面

## 曙

秋も深まる頃、川原で芋煮会をして、友人や知人と楽しんだ。山形大学の学生時代である。その頃から約40年が経った▼11月23日の勤労感謝の日にクニックの第18回の収穫祭を行った。風は多少吹いたが天気に恵まれた。内容は芋煮会である。豚汁に里芋を加えるだけではないが、これが美味である。秋の味覚サンマを焼いて加える。ごはんは玄米・白米の混合である。またデザートには安納芋の焼芋を出す▼患者さんやその家族、地域の人達、友人、知人その家族など多くの人が来てくれて、久しぶりの会合を楽しんで、食べる・しゃべるだけでなく、多少学習もしていただく。食物アレルギーの予防から健康になる食生活について話をする。玄米入りのごはんは、白米のアレルギーを抑えるし、便通もよくする。お魚のEPAはアレルギーを抑えるだけでなく、動脈硬化予防にもつながる。有機無農薬で作った野菜は農薬の害がないだけでなく、ビタミン等も豊富である▼販売したのは有機無農薬で作った大根、コンジニ、秋ジャガ、ピーナツ、里芋、サツマイモなどである。今年は大変豊作でもあり、完売であった。一緒にパッケージもさせていただいた。出品は多くの方に協力してもらった。日頃の医療だけのつながりでなく、地域の中でいる方との交流ができ、準備した職員は大変だったと思うが、収穫もあつたと思う。

(佐賀市 山口 宏和)